

「県の広聴広報活動について」実施報告

三重県では、広報紙「県政だより みえ」やテレビ、ラジオといった広報媒体を通じて、県民の皆さんに様々な情報をお届けしています。

また、「さわやか提案箱」や「アンケート調査」をはじめ、様々な方法で寄せられる県民の皆さんからのご意見、ご要望などを県政に反映、活用させていただいています。

今後、これらの活動を進めていくうえでの貴重な資料として活用させていただくため、アンケートを実施いたしました。

アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さんにお礼を申し上げますとともに、アンケートの実施結果を、下記のとおり取りまとめましたので、報告します。

記

アンケート概要

- 1 実施期間 平成21年5月13日から22日 午前0時まで
- 2 回答率 69.9% (対象者数 1,504名:回答者数 1,052名)
- 3 回答者属性

【性別】

| | 男性 | 女性 |
|------|-------|-------|
| 回答者数 | 584名 | 468名 |
| 構成比 | 55.5% | 44.5% |

【年齢層別】

| | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代以上 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 回答者数 | 133名 | 245名 | 254名 | 222名 | 142名 | 56名 |
| 構成比 | 12.6% | 23.3% | 24.1% | 21.1% | 13.5% | 5.3% |

【地域別】

| | 北勢 | 中南勢 | 伊勢志摩 | 伊賀 | 東紀州 |
|------|-------|-------|-------|------|------|
| 回答者数 | 471名 | 280名 | 158名 | 101名 | 42名 |
| 構成比 | 44.8% | 26.6% | 15.0% | 9.6% | 4.0% |

※北勢…四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

中南勢…津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

伊勢志摩…伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町

伊賀…名張市、伊賀市

東紀州…尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

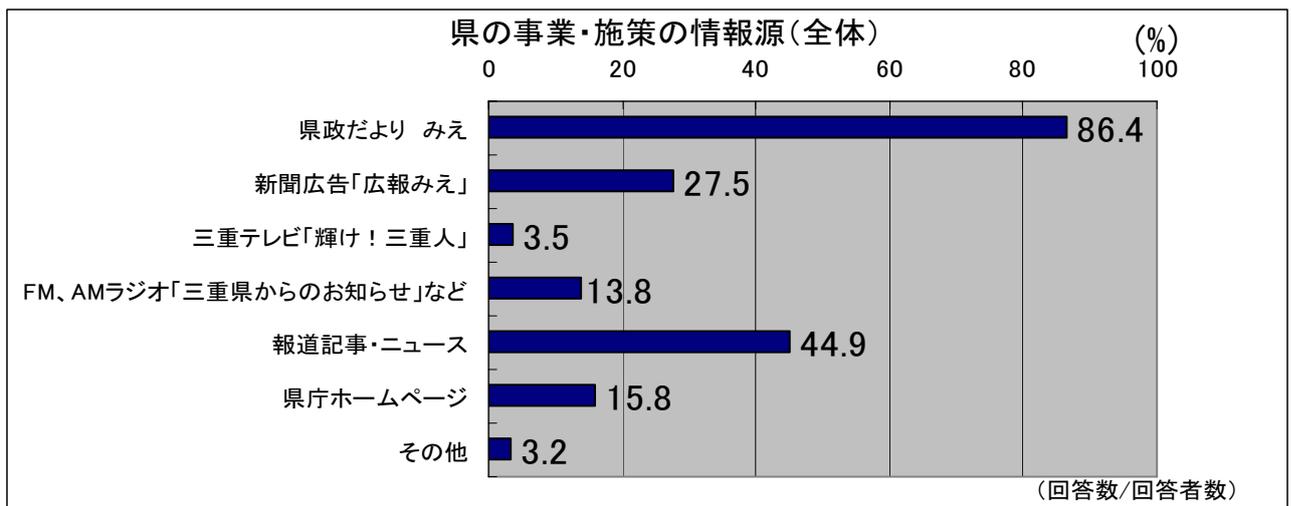
アンケート結果を受けて

【設問1 県の事業・施策の情報源】

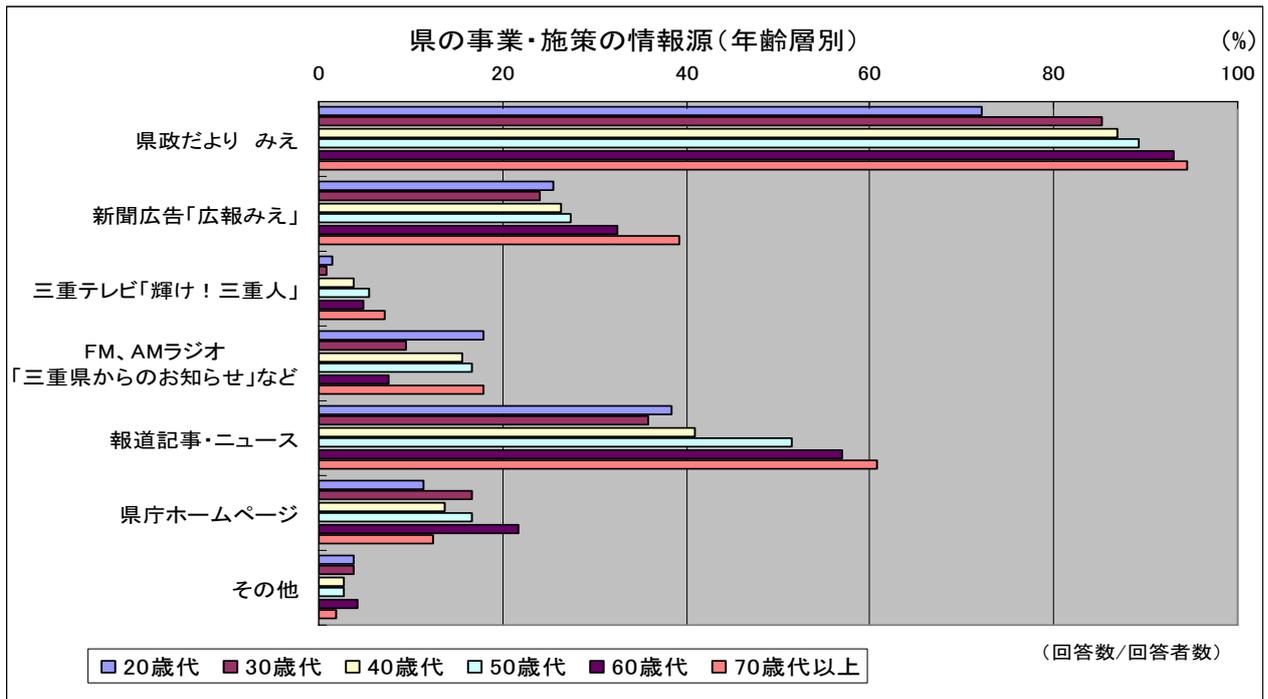
あなたは、県が行っている施策や事業について、どこから情報を得ていますか。
(複数回答可の設問です。)

【選択肢】

- ・県の広報紙「県政だより みえ」
- ・新聞広告「広報みえ」など
- ・三重テレビ「輝け！三重人」(金曜日 22時15分から 22時30分)
- ・FM三重、東海ラジオ、CBCラジオ「三重県からのお知らせ」「こんにちは三重県です」「三重県の窓」など
- ・新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュースなど
- ・県庁関係のインターネットホームページ (<https://www.pref.mie.lg.jp>) など
- ・その他

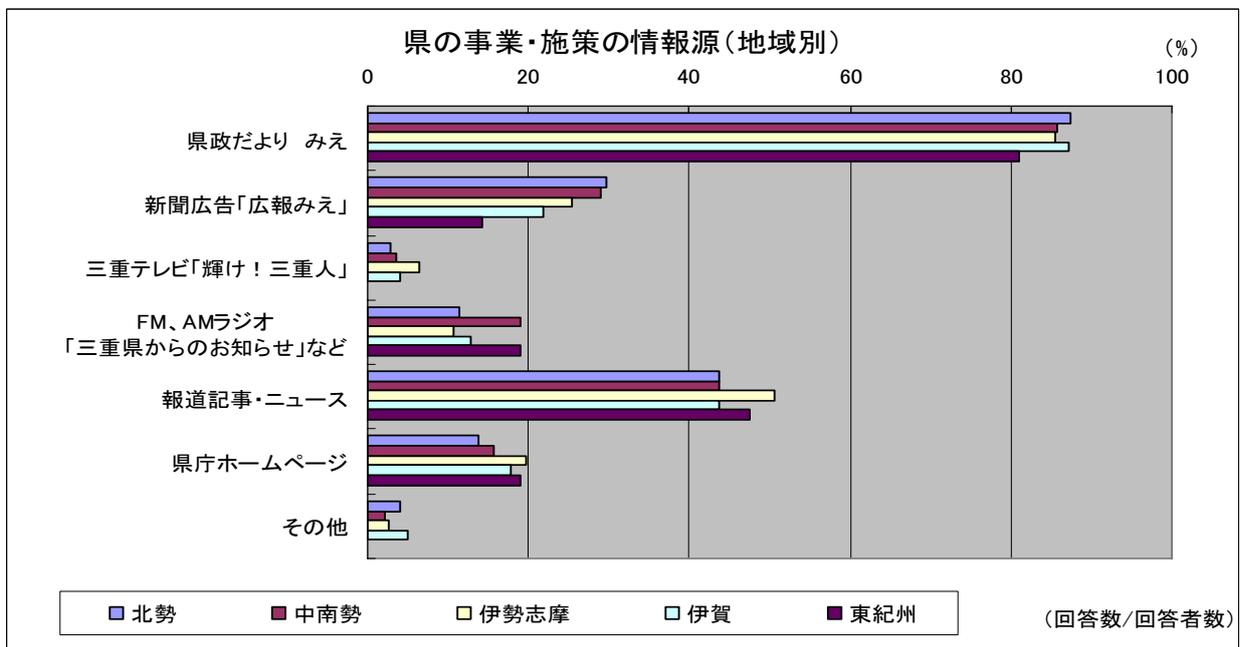


県の事業・施策の情報源については、「県の広報紙『県政だより みえ』」が 86.4%と最も多く、次いで「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュース」が 44.9%、「新聞広告『広報みえ』」が 27.5%となっています。



年齢層別でみると、「県の広報紙『県政だより みえ』」を情報源としている方は、20歳代（72.2%）を除き8割を超えています。

ここで得られた年齢層による傾向、結果を参考に、県民の皆さんにより広く、効果的に情報が伝えることができるよう、広報活動に取り組んでいきます。



地域別でみると、「県の広報紙『県政だより みえ』」は、最も低い東紀州地域でも81.0%と、いずれの地域においても8割を超える結果となりました。

「県の広報紙『県政だより みえ』」は、県内いずれの地域においても他の媒体に比べ、圧倒的に県の事業・施策の情報源として捉えられていることがわかります。

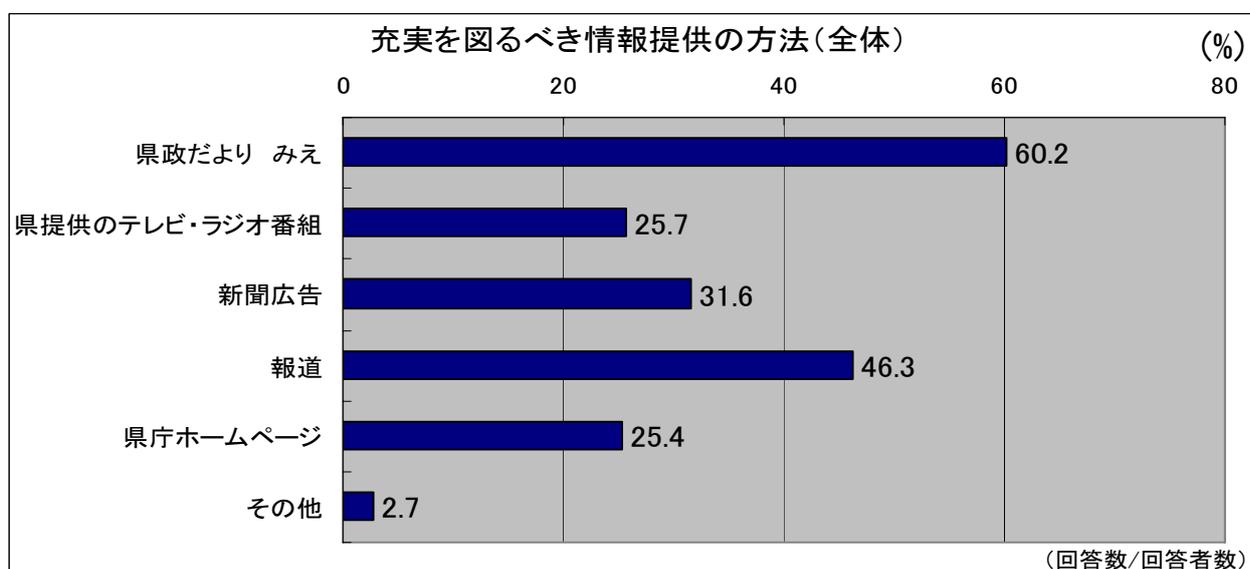
また、「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュース」では、他の地域と比べ、伊勢志摩地域が最も高く、50.6%という結果となりました。

【設問2 充実を図るべき情報提供の方法】

今後充実を図るべき県の情報提供の方法は、どのような方法が良いとお考えでしょうか。(複数回答可の設問です。)

【選択肢】

- ・県の広報紙「県政だより みえ」の充実
- ・県提供テレビ・ラジオ番組の充実
- ・新聞広告の充実
- ・報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実
- ・県庁関係のインターネットホームページの充実
- ・その他

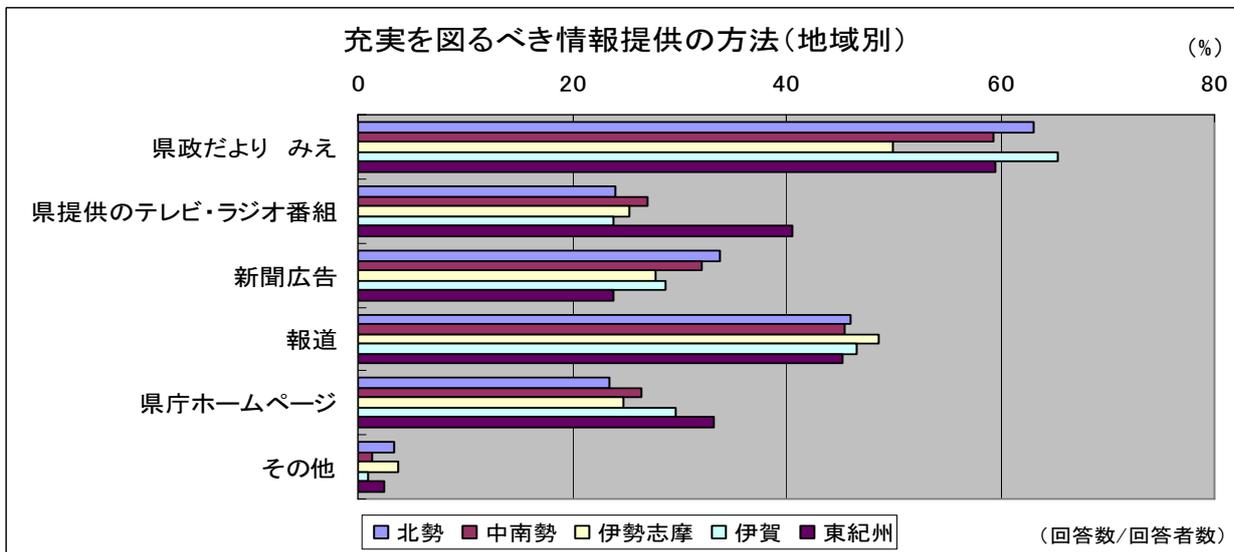
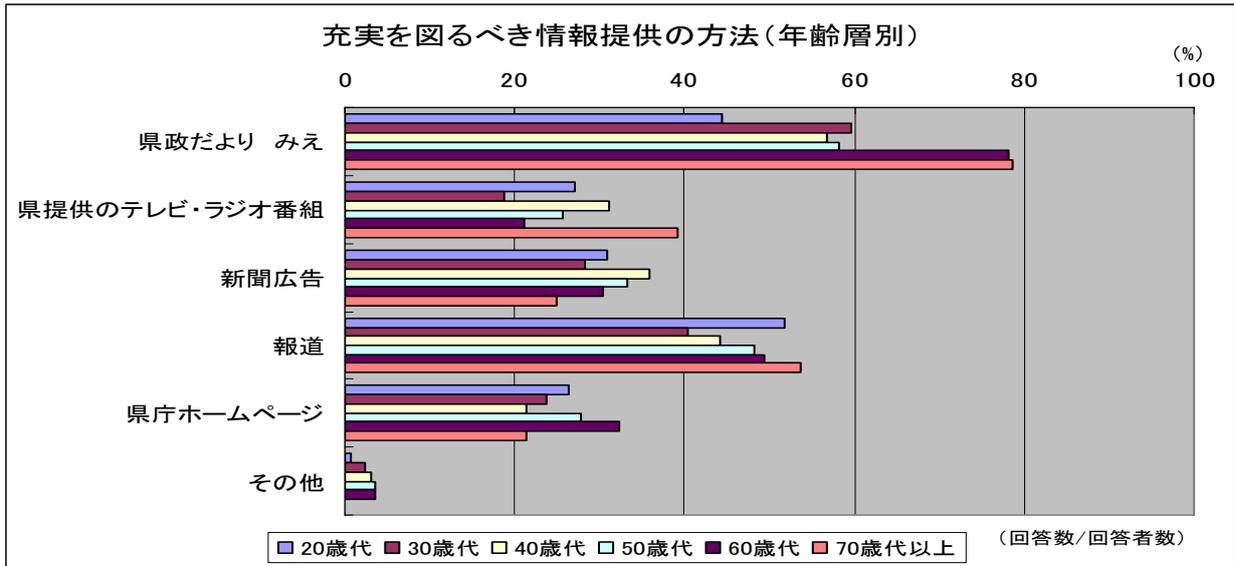


今後、充実を図るべき県の情報提供の方法については、「県の広報紙『県政だより みえ』の充実」が60.2%と最も多く、次いで「報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実」が46.3%、「新聞広告の充実」が31.6%となっています。

設問1とあわせて考えてみても、毎月発行し、県内全戸に配布される「県政だより みえ」に対する県民の皆さんの期待が高いことがうかがえます。一層、内容を充実した紙面づくりに努めていくことが必要です。

また、その他の意見として、「スーパーなど人の出入りの多いところに掲示する。」や「地域の情報雑誌への掲載」などのご意見をいただきました。

県では、イオングループのご協力を得て、各店舗にラックを設置し、「県政だより みえ」をはじめ、イベント情報、観光情報を記載したチラシなどを配布しています。また、地域情報誌の「くじら」にも、県からの情報を掲載されていますので、ご覧ください。



今後、充実を図るべき情報提供の方法として多くの方に選択された「県の広報紙『県政だより みえ』」についての年齢層別、地域別の傾向は上記のとおりです。

年齢層別では、60歳代が78.2%、70歳代以上が78.6%と、ともに8割近い結果となっています。逆に、20歳代では、44.4%という結果となりました。

地域別では、伊賀地域が最も高く（65.3%）、伊勢志摩地域が最も低い（50.0%）結果となりました。

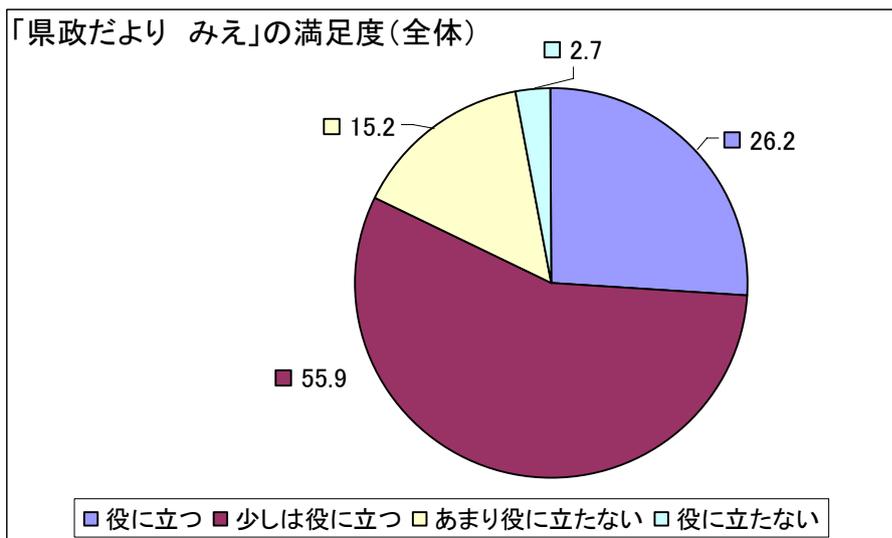
逆に、伊勢志摩地域では、「報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実」が48.7%と、他の地域よりも高い結果となりました。

【設問3 「県政だより みえ」の満足度】

「県政だより みえ」（各戸配布の県の広報紙）は、どの程度役に立つと思いますか。

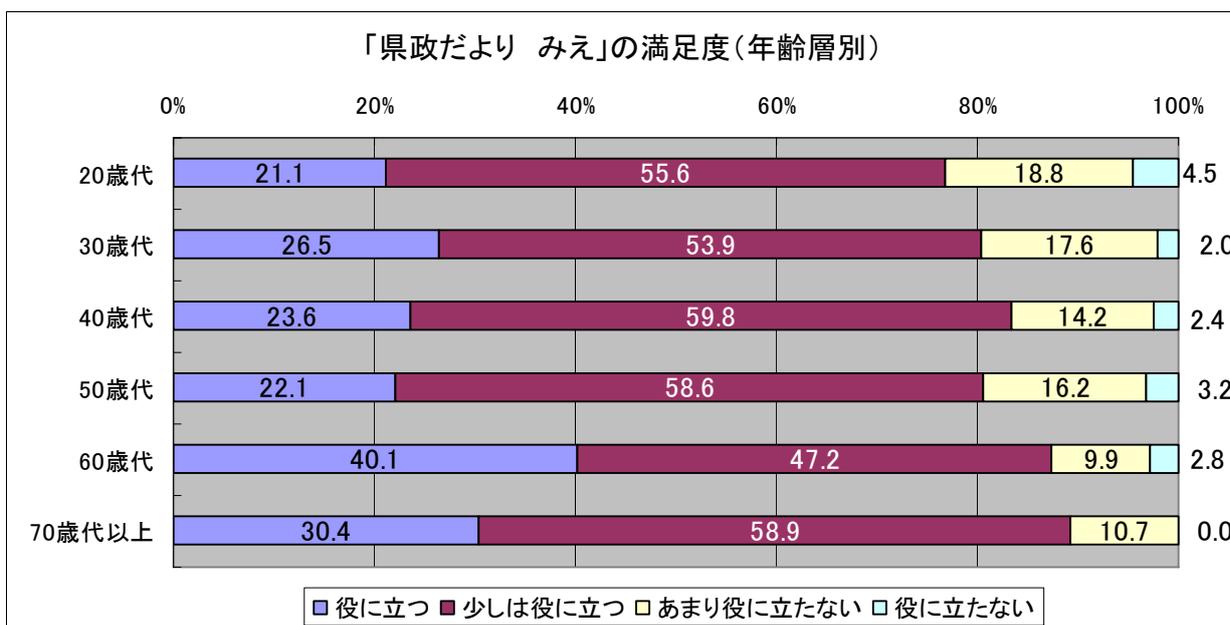
【選択肢】

- ・役に立つ
- ・少しは役に立つ
- ・あまり役に立たない
- ・役に立たない

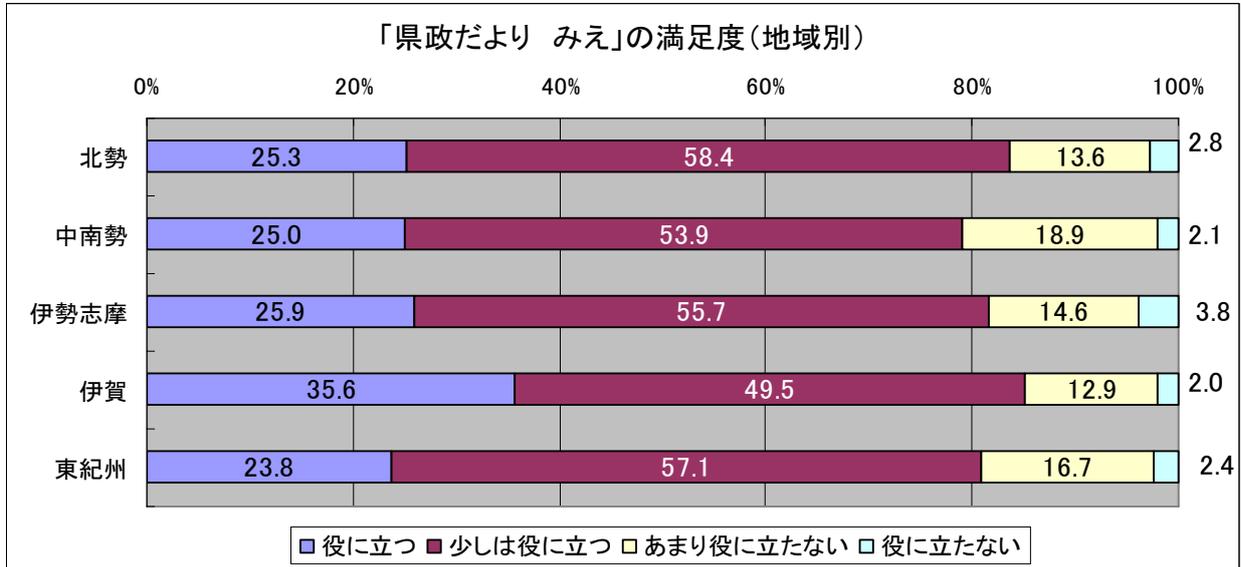


「県政だより みえ」について、「役に立つ」（26.2%）、「少しは役に立つ」（55.9%）と答えた方を合わせると82.1%となり、8割を超える方に満足いただいている結果となりました。

今後とも、この結果を維持、向上できるよう、皆さんのお役に立てる紙面づくりを心がけていきます。



次に、年齢層別でみると、「県政だより みえ」について、「役に立つ」「少しは役に立つ」と答えた方（肯定的に受け止めていただいている方）は、20歳代（76.7%）を除き各年齢層で8割を超える結果となりました。特に、60歳代では、「役に立つ」と答えた方が4割を超える結果（40.1%）となりました。



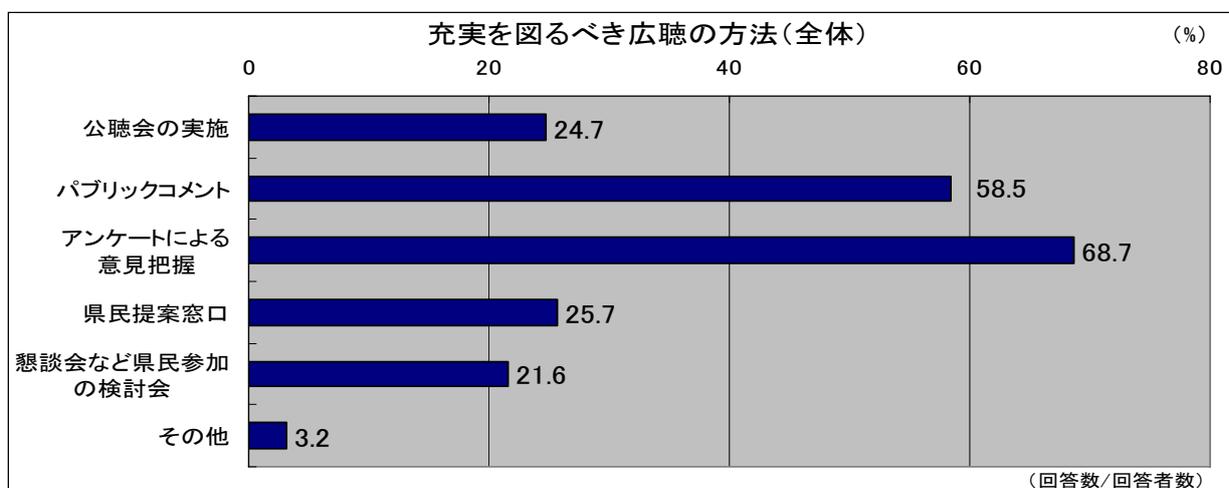
地域別にみても、「役に立つ」「少しは役に立つ」と答えた方（肯定的に受け止めていただいている方）は、中南勢地域（78.9%）を除き各地域で8割を超える結果となりました。特に、伊賀地域では、「役に立つ」と答えた方が35.6%と他の地域と比べ10ポイント程度多い結果となりました。

【設問4 充実を図るべき広聴の方法】

県民の皆さんの意見や要望をより一層県政に反映させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答可の設問です。）

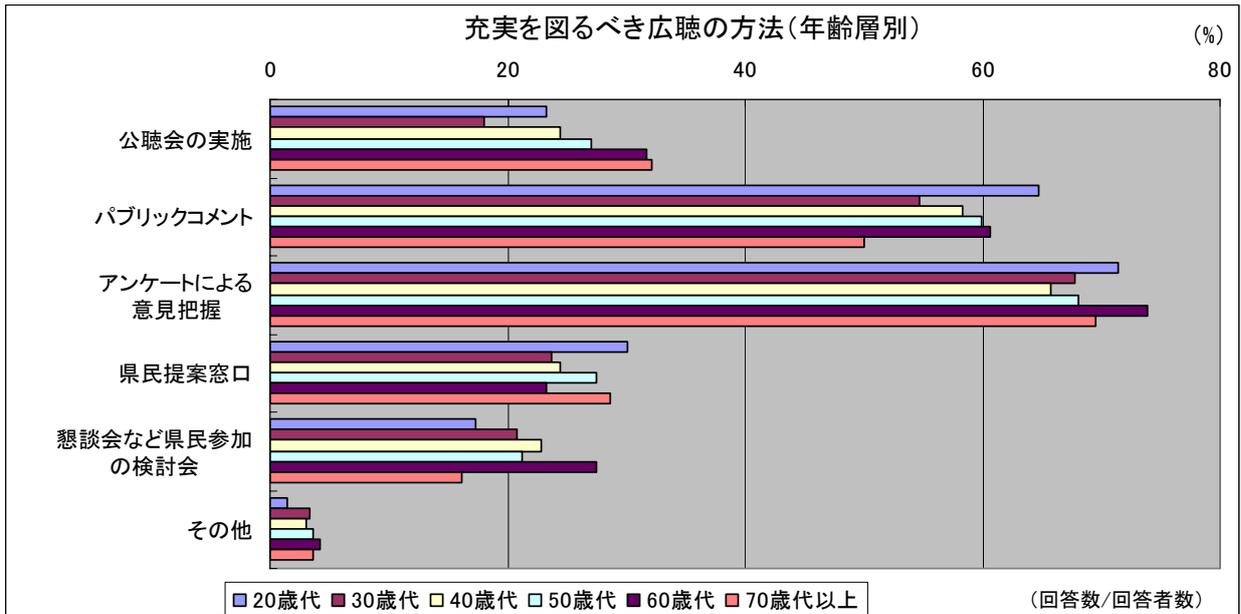
【選択肢】

- ・公聴会（意見聞き取り会）等の積極的な実施
- ・インターネットによる意見反映制度（パブリックコメント等）の充実
- ・アンケート調査等による定期的な県民意見の把握
- ・県民提案（相談）窓口の充実
- ・委員会や懇談会など県民が直接参加する検討会の充実
- ・その他

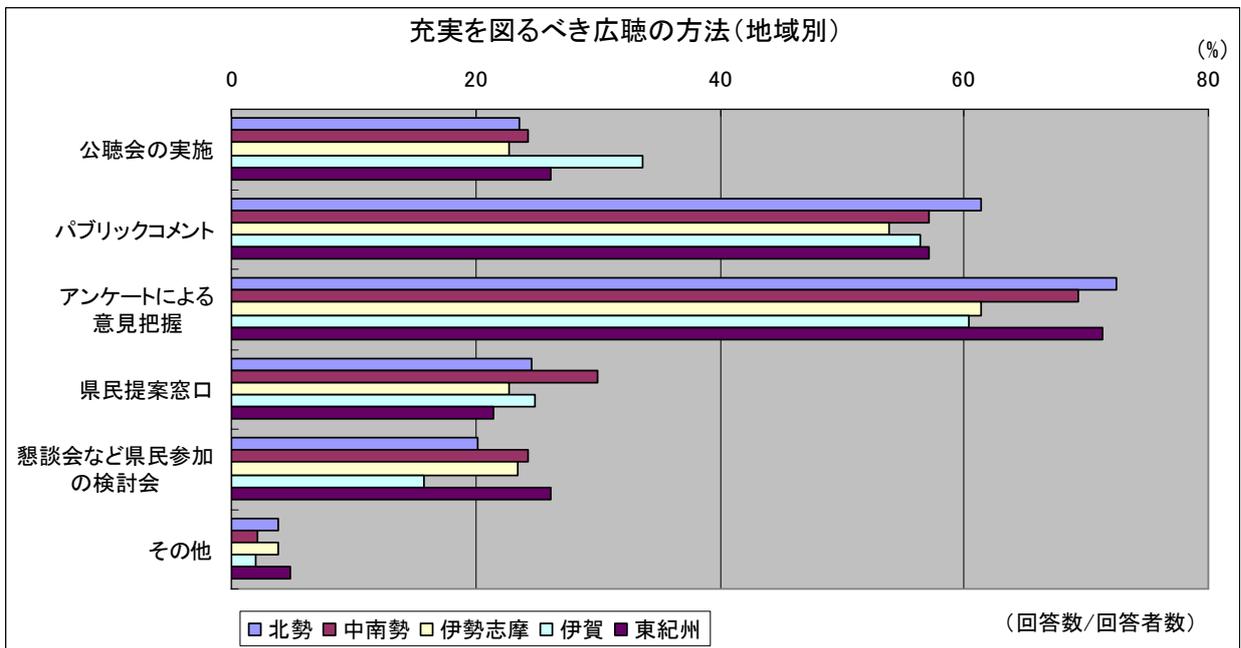


県民の皆さんのご意見やご要望をより一層県政に反映させるために、どういった広聴の方法を充実させるべきかについては、「アンケート調査等による定期的な県民意見の把握」が 68.7%と最も多く、次いで、「インターネットによる意見反映制度（パブリックコメント等）の充実」が 58.5%、「県民提案（相談）窓口の充実」が 25.7%となりました。

その他の意見として、「普段、県政等に興味・関心がない人の意見を取り入れることが大切。」などのご意見をいただきました。具体的にどのような方法を講じることができるのかについては難しい課題です。県では、積極的にご意見を寄せていただく方はもちろんのこと、サイレント・マジョリティ（物言わぬ多数派）といわれる方々の真意を汲むため、様々な広聴の方法（例えば無作為抽出によるアンケートなど）を用意し、引き続きあらゆる機会を通じて、県民の皆さんからご意見をお伺いすることとしています。



年齢層別にみると、「アンケート調査等による定期的な県民意見の把握」では、60歳代(73.9%)、20歳代(71.4%)において、7割を超える結果となりました。また、「インターネットによる意見反映制度(パブリックコメント等)の充実」では、20歳代において64.7%となり、最も多い結果となりました。



地域別にみても、「アンケート調査等による定期的な県民意見の把握」では、北勢地域、東紀州地域がそれぞれ72.4%、71.4%と7割を超える結果になったのに対し、伊賀地域、伊勢志摩地域ではそれぞれ60.4%、61.4%という結果となりました。